

1. 出生から『アンクル・トムの小屋』執筆まで

1811 年、作詩者ハリエット・ビーチャー・ストウ夫人 (Harriet Beecher Stowe , -1896)、米国コネチカット州リッチフィールドで、会衆派系(*1)の名家ビーチャー家に生まれる。

*1 1620 年信教の自由を求めメイフラワー号でマサチューセッツに降り立った建国父祖 (Pilgrim Fathers) にその起源を有し、組合派とも呼ばれる。

父は著名な牧師ライマン・ビーチャー博士、兄は後に大説教家となったヘンリー・ウォード・ビーチャー。彼女は 5 歳で母を失い、翌年の父の再婚までコネチカット州ギルフォードの祖母のもとで生活。

1824 年 (13 歳)、姉がハートフォードに開いた女子学校に入学。男子と同等の古典、語学教育を受ける。

1832 年 (21 歳)、家族は奴隷制反対活動の中心地であったオハイオ州シンシナティに移住、18 年間居住。

1835 年 (24 歳)、同市レーン神学校(*2)のカルビン E.ストウという言語学・聖書文学の教授と結婚。

*2 https://wikiland.wiki/ja/Lane_Seminary

彼女たち夫婦の家は、「地下鉄道の駅」(隣接するケンタッキー州等の南部から北部の自由州やカナダへの逃亡奴隷を支援した組織・その逃亡路)であり、或る時は危険を感じた夫と弟が武装馬車で逃亡奴隷を安全地帯まで運んだこともあった。また、そのシンシナティでは、

1836 年 7 月、市内で奴隷制度廃止に反対の暴動起こる。

1841 年 9 月、市内で白人と黒人の衝突。

1850 年 (39 歳)、シンシナティから米国東海岸北部のメイン州ブランズウィックに転勤となった夫と共に移住。

そこで、逃亡奴隷から牧師になったジョサイア・ヘンスン(アンクル・トムのモデル)から話を聞く。同年の逃亡奴隷法制定が、『アンクル・トムの小屋、Uncle Tom's Cabin』を執筆する直接の動機となった。

2. 『アンクル・トムの小屋』出版

1851 年 (40 歳)、ワシントン DC の週刊誌『国民時代』6月5日号に、『アンクル・トムの小屋』の連載第一回が掲載された。

1852 年 3 月、連載完結を前に、単行本として『アンクル・トムの小屋』を出版。発売当日に初版 5000 部中 3000 部が売れ、その後 1 年間で 120 版に達し 35 万部が売れるという空前の大ベストセラーとなるなど国内外に感動の嵐をまきおこした。黒人の悲運と奴隷制の非人道性を初めて劇的に描き出して世に問うた作品であり、世人の正義心に激しい衝動と刺激を与え、南北戦争の引き金の一つとなったと言われる。

奴隷制擁護論者からの激しい反発と批判

この出版後、奴隷制支持者たちによるアンチ本(反トム文学)が多数出版された。内容的には「優しい白人主人の元で幸せな生活を送る黒人奴隷」であったり、作者へのいわれなき個人攻撃に終始したものがほとんどであったが、文学作品としての不備の指摘や、資料や事実の誤謬につき、奴隷制廃止論者・支持者両陣営からの指摘があったのも事実。

また、この『アンクル・トムの小屋』は、日本でも児童書などに翻案されて広く知られている。しかし原書は、上下巻合わせて 44 章にもなり、全編に 20 数か所にも及ぶ讃美歌の引用、さらに聖書や宗教詩の自由な引用もあることから、聖書信仰を解せない人々からの酷評も受けた。

3. 讃美歌「Still, Still with Thee」の誕生

1852 年 7 月、『アンクル・トムの小屋』出版直後、夫の転勤でマサチューセッツ州アンドーヴァーに家族で移住。

1853 年 3 ～ 9 月、第一回ヨーロッパ旅行。英国では大歓迎を受けた。

1853 年夏の或る朝（1855 年とする資料もあり）、詩編 139 編を瞑想中に記したのが「Still, Still with Thee」。

ストウ夫人は平素から午前 4 時半に起床し、太陽が昇るのを見、小鳥の囀りを聞きながらディボーショナルな時を持つことが日課であったと伝わっている。

1855 年、彼女の兄ヘンリーが編纂したプリマス讃美歌集に初めて掲載された。



メロディー

この讃美歌が出版された当初は今日とは異なる曲が付されていたが、ある時、メンデルスゾーン作曲「無言歌」第 2 巻（作品 30）第 3 番ホ長調「慰め」（Consolation）を編曲したものに差し替えられた。残念ながら、その時期、編曲者は不詳だが、この名曲と名編集により、彼女の歌詞は新たないのちを得たと言えよう。

邦訳者

由木康牧師（1896 － 1985）。

讃美歌 30 番以外には、讃美歌 21_211 番。聖歌 100 番では「しずかに神と」と題して収録あり。

4. ストウ夫人とリンカーン

1861-1865 年、南北戦争

1862 年 11 月 25 日、彼女が首都ワシントン D.C. 旅行中に、リンカーン大統領と会見。その際、リンカーンが「あなたのような小さな方が、この大きな戦争を引き起こしたのですね」と挨拶したと彼女の息子は伝えているが、その真偽は定かでは無い。

1863 年、奴隷解放宣言

1865 年 4 月 14 日、リンカーン暗殺

5. 晩年

1886 年、夫カルビン・ストウ死去。彼女は娘の一人とともにコネチカット州ハートフォードに移住。しかし、その後急速に健康状態が悪化。アルツハイマー病を推測する専門医もいる。

1889 年、四男チャールズ・エドワード、最初のストウ夫人伝を出版。

1896 年、85 歳で逝去。マサチューセッツ州アンドーヴァー教会墓地に埋葬さる。

以上